

I 水戸一高硬式野球部への期待

三の丸倶楽部 会長 鬼澤 邦夫

水戸一高硬式野球部の後援会である三の丸倶楽部は、平成20年6月の創設以来、会員の皆様の熱いご支援に支えられ、10周年を迎えることができました。ここに改めて厚くお礼申し上げます。



母校野球部は昭和29年に3回目の甲子園出場を果たして以来、なかなかファンの期待に応えられませんでした。平成19年の秋季県大会で久しぶりに準々決勝まで進出し、県高野連から21世紀枠への推薦をいただくことができました。これを契機に、学校及び野球部OB会（水府倶楽部）とは別な、一般の水戸一高野球部ファンを対象とした後援会設立の機運が高まり、本倶楽部が創設されました。

会員数は発足当初約110名でしたが、現在は約200名、元会員を含めると総勢300名以上に達しております。このなかには、同窓生（知道会会員）ではない一般のファンの方々、関西や中部地区在住の方々なども含まれており、

野球部への期待の大きさを感じます。皆様からお預かりした年会費は、部長及び監督の要請に基づき、水府倶楽部と連携を図りながら、野球用具類の提供、遠征費の一部支援、コーチ謝礼など、具体的な支援に充てさせていただいております。また、このような皆様からのご支援に対する感謝の意も込めて、会報「入魂」を年2回定期的に発行し、皆様へお届けしております。残念ながらこのところ春秋の県大会、茨城大会4回戦以上への進出を逃しておりますが、このようにときこそ未来を信じ、地道に支え続けるのが後援会の本来の姿ではないでしょうか。

本年は学校創立140周年、野球部創部127周年を迎え、夏の全国選手権大会は第100回目の記念大会を迎えます。高校野球の結果は技術のみが反映されるものではありません。選手諸君を温かく、ときには厳しく見守る関係者の団結力がそれに大きく影響し、部員たちには驚くような力が加わります。4月の春季大会では陽光の中で選手諸君が躍動し、応援団とファンが一体となる7月の茨城大会では、雌伏64年の厚い壁を破ってくれることを期待し、三の丸倶楽部創設10周年のご挨拶といたします。



鬼澤会長講話「野球に学ぶチーム(組織)力」
平成26年6月30日 知道会館



会長への活動報告(毎年度末)

Ⅱ ご挨拶

水戸第一高等学校 校長 鈴木 一弘

三の丸倶楽部の会員の皆様には、日頃より本校硬式野球部に多大なるご支援を賜り、厚く御礼を申し上げます。

また、三の丸倶楽部が創設10年を迎えられましたこと、誠におめでとうございます。会の創設から今日に至るまで、三の丸倶楽部の運営の中心的な役割を担って来られた事務局長森利克様と幹事の皆様のご尽力に対しまして、心より敬意と謝意を表する次第です。

私ごとですが、かつて子ども2人が本校硬式野球部に在籍し、5年間にわたってお世話になりました。大会や練習試合などで子どもたちの活動を間近に見ることができたことは、保護者として大きな楽しみでした。春・夏・秋の大会、岡山・静岡等への遠征、早大学院や慶応との練習試合など思い出は尽きませんが、いずれの試合にも森様の姿があり、スタンドやネット裏でスコアをつけながら温かく部員達を応援してくださいましたことは、部員のみならずその保護者であった者すべての胸に深く刻まれているものと思います。改めて厚く御礼を申し上げますとともに、いつまでもお元気で水戸一高野球部を応援し



ていただきますようお願い申し上げます。

さて、三の丸倶楽部は平成19年秋に本校硬式野球部が第80回選抜大会の21世紀枠の県推薦を受け、甲子園出場への期待が高まったのを機に創設されたものと伺っております。

あれから10年の時が流れ、未だ甲子園出場の夢を実現するに至っておりませんが、硬式野球部員諸君は、学生野球の父と称された飛田穂洲先生の教えを胸に伝統を継承するとともに、新たな水戸一高の野球を創造すべく日々活動に取り組んでおります。礼儀正しく、部活動に真摯に取り組むとともに、学習をおろそかにすることなく難関大学をめざす硬式野球部員の姿は、文武両道を旨とする本校生の範となっているといっても過言ではありません。

昨年夏の甲子園で、アルプススタンドを真っ赤に染めた彦根東の大応援団の応援は圧巻でした。また、平成25年春の選抜で西日射すアルプススタンドを輝く黄色に染めた済々黌の大応援団の姿も忘れることができません。

遠くない将来、水戸一高の大応援団の歓声が甲子園のアルプススタンドを揺るがす時が来ることを願いつつ、会員の皆様には引き続きご支援のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



第99回全国高校野球選手権茨城県大会 1回戦 対鹿島学園戦(平成29年7月10日)水戸市民球場

Ⅲ 三の丸倶楽部創設10周年に寄せて 水戸一高硬式野球部 監督 竹内 達郎

◇ごあいさつ

三の丸倶楽部の皆様には、日頃より本校硬式野球部に対して、物心両面からのご支援を賜り、まことにありがとうございます。また森事務局長には、公式戦・練習試合のほぼ全試合に駆けつけ、チームに対して熱のこもった激励をいただいております。監督としてもどれほど勇気づけられたかわかりません。重ねてお礼申し上げます。

さて、本校の監督に就任し7年が経過いたしました。指導者として選手を鍛え上げ、伝統校としての存在感を示すべく精進しておりますが、皆様が待ち望んでいる成果をあげる点においては、まだ道半ばにも達していないと受け止め、来る8年目のシーズンにいよいよ臨むところであります。

今回、本号に寄稿させていただく機会を得ましたので、この紙面をお借りして日頃の取り組みと今後の展望を皆様にお伝えしたいと思います。

◇目指せ甲子園！

今年の夏は、第100回全国高等学校野球選手権記念大会が開催されます。本校は第15、16回大会を水戸中学として、第36回大会は水戸一高として過去3度の甲子園出場を果たしております。また、飛田穂洲先生は甲子園での戦評を数多く記し、そこで健筆を振られたことは皆様もご存じのこととされます。よって、本校の甲子園回帰は、多くの高校野球ファンの待望論と理解しております。

全国的には本校と同じような伝統ある公立進学校が、21世紀枠や地方大会を勝ち抜いて甲子園大会に出場している事例が数多くあります。とくに、近年その躍進が著しい静岡高校、今治西高校、今春の選抜大会にも出場する彦根東高校、東筑高校などは本校と同じ境遇の学校であり、それぞれの監督や部長も大学の先輩で非常に

身近な存在であります。我々も励みにするとともに、「為せば成る」



という精神を日頃より選手に説いて練習に臨んでいるところです。

◇強豪校への武者修行

このような甲子園大会出場への道のりは、練習量に比例して導き出せるほど単純な方程式ではありません。よって就任当初より、北は青森、南は高知まで全国を行脚し、甲子園レベルの強豪校へ遠征しています。それは、選手たちに全国レベルのスピード・パワー・技術、そして強豪チームの勝負に対する厳しさや競争意識を肌で感じることで水戸地区や茨城県を勝ち抜く術を見出し、日頃の鍛錬に活かしてほしい思いから武者修行を敢行しております。当然、「たとえ技は彼らより拙くても、野球に取り組むハートだけは絶対に負けるな！」と説き戦いに向かっていく次第です。選手たちは旅情も含めて、見聞を広める絶好の機会となっていると考えています。

◇人づくり

本校を志す小・中学生の野球選手にとって、伝統ある水戸一高のユニホームを身に纏い活躍することは大きな夢であることでしょうか。一方で本校野球部員には、ここを出発点として3年間で培った精神を将来にわたって、さらに高めてほしいと考えているところです。これからの世の中は、社会が目まぐるしく変化し、予測が不可能な時代に突入していくことが見込まれています。しかし、この厳しい世の中においても、困難に挑み生き抜いていける素地を身につけ、野球のみならずあらゆるフィールドで羽ばたいてもらいたいと思っています。幸い、大学野球のステージにおいても、競技を継続する選手が数多く輩出されています。現在7年間で16人が、立教大学（東京六大学リーグ）、筑波大学（首都大学リーグ）、京都大学（関西学生リーグ）、東北大学（仙台六大学リーグ）、茨城大学（関甲新リーグ）などで大学野球を続け、リーグ優勝や大学日本一を目指し活躍しているところです。さらに、将来野球

の指導者を志している卒業生や現役部員も数多く存在することも指導者冥利に尽きるところです。このように、日頃から人づくりに力を傾注して選手を鍛えております。とくに、選手の競技力や体力向上よりも、心の側面に焦点を当てて指導をしています。その内容は、個人面談、練習外の個別レッスン、読書の奨励、部朝礼などを実施し、それによって選手たちの内面に迫り、野球人として、さらに社会人としても将来的に通用するような人物に育てているところです。

◇野球の魅力

100年の歴史を刻み、人気を博す高校野球ですが、一方で子ども達の野球離れも声高に叫ばれております。このような時代だからこそ、本校野球部の姿によって野球の魅力伝えていかなければならないと考えております。

飛田穂洲先生は、「一球入魂」「快打洗心」「練習常善」という野球への取り組み方、さらには人間の生き方に大きな影響力を与える普遍的な言説を遺されています。とくに、「不器用な者がうまくなったらこんな心強いものはない」というお言葉に本校野球部のあるべき姿が凝縮されている気がします。本校野球部の門を叩く選手は、中学時代の鳴りものではなく、むしろ野球経験の少ない伸びしろのある人材でもあります。野球の技術や基礎体力は、一朝一夕に向上させることはできません。しかし、はじめは上手くなくてもひたむきに努力したり、工夫する姿勢は本校生の持ち味であります。3年生の夏の大会を迎えるころには、入学当初から比べ別人のように伸びる選手が出現し、活躍を見せることは毎年驚きの連続です。これは、本校の選手ならではの現象ではないでしょうか。

監督として、飛田穂洲先生の精神性を念頭に置きながら、現代の野球界で通用する合理性を指導法に加えて、さらに選手の伸長を図れるよう指導していきたいと思えます。野球界の選手育成法や指導法は日進月歩です。また、体力トレーニングの進化も著しく、それぞれについて研鑽をつまなければ、チームの躍進と選手の活躍は望めないと考えております。よって、最新鋭の理論を絶えず情報収集し、選手の指導に活用している毎日です。このような効果的な指導によって、懸命に取り組む本校の選手たちの投げる・打つなどのスキルは飛躍的に向上します。これらに、私自身が高校・大学時代に経験することのできた勝負哲学を融合させながら、チームを究極の勝利に導くことが最終目標と考えています。

野球は強豪校に見られるような身体能力や個人の技量に優るチームでも、本校のような進学校や公立校が叡智を絞り、技を磨き、力を合わせて戦えば、勝利を収めることのできる意外性のあるスポーツです。そこに野球の魅力が溢れているはずですよ。

今シーズンは、チームと選手たちあらゆるアプローチを施し、着実に力を蓄え勝負に打って出ます。春と秋の大会では、水戸地区大会を勝ち抜き県大会へ出場し、そして県大会ベスト8以上進出が目標。そして、夏の第100回記念である茨城県大会では、甲子園出場を目標に掲げ歩いていきます。選手たちとともに成長し、ぜひとも甲子園回帰を成し遂げたいと思えます。

今後とも、水戸一高硬式野球部に対して皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

Ⅳ 三の丸倶楽部10年の歩みと期待

事務局長 森 利克

硬式野球部は平成19年の茨城大会で4回戦へ進出し、竜ヶ崎一に2-3で惜敗しました。さらに、秋季県大会ではベスト8へ進出し、東洋大牛久に2-4でまたもや惜敗しましたが、県高野連から21世紀枠への推薦を受けました。これらの活躍を契機に、水府倶楽部（野球部OB会）及び部員父母会はじめ熱心な応援者の間で後援会設立の機運が高まりました。昭和38年の卒業以来は公式戦を、平成16年春からは練習試合を含めてほぼ全ての試合を観てきた私は、当時の水府倶楽部幹事長の乾氏、野球部員父母会会長の佐々木氏および元会長の橘氏から誘われ、設立の世話役の一人として参画しました。他の世話役の皆さんと活動計画、会則、予算案などを作成し、翌年（平成20年）1月26日に当時の五味田校長先生へ説明して賛同いただき、さらに同年6月8日に開催された設立総会で上記案を承認いただき、本倶楽部が発足しました。

それ以降10年間の活動の概要をまとめてみました。ご自身も中学球児であった野球大好きな鬼澤会長（常陽銀行会長）には創設当初から、武藤元副会長（元県商工労働部長）には3年間、稲葉顧問（元県教育長）には平成24年から活動全般についてご指導いただいております。幹事（設立前は世話役）としては退任者も含めると総勢11名

の方々に協力いただけてきました。おかげさまで、総会を毎年定期的（6月）に開催でき、会報を年2報（3月と9月）発行して大学及び社会における水府倶楽部会員の活躍と後輩部員への応援メッセージ、会員からの応援メッセージ、野球に関わるシリーズ記事、活動報告、試合予定及び結果、部員紹介などをお届けしてきました。また、知道会報、同窓会、地方紙などによる広報にも努め、会員数は設立当初の110名からほぼ倍増しました。会員の皆様からお預かりした年会費（年40～50万円）により、水府倶楽部と連携しながらバッティングマシン、ユニフォーム、用具収納具、ビデオ機器など用具類の提供、設備の更新または修理、遠征費（一部）、コーチ謝礼など、野球部からの要請に応じてきました。ここに改めて会員の皆様へ厚くお礼申し上げます。

残念ながら、このところ春秋の県大会、夏の茨城大会4回戦以上への進出を逃していますが、そのようなときこそ地道な支援、応援が必要ではないでしょうか。まもなく始まる選抜大会にも静岡、膳所、彦根東、東筑、伊万里などが出場します。いずれも歴史と伝統がある県立の進学校であり、水戸一高ができないはずはありません。会員の皆様、これからも応援を続け、信じて待ちましょ！

三の丸倶楽部 10年の歩み（1）

		平成20年		平成21年			平成22年		平成23年		
役員	会長	鬼澤邦夫		鬼澤邦夫			鬼澤邦夫		鬼澤邦夫		
	顧問・副会長	—		武藤賢治（副会長）			武藤賢治（副会長）		武藤賢治（副会長）		
	事務局長	森利克		森利克			森利克		森利克		
	幹事（担当）	乾修（水府倶楽部） 小野瀬孝夫（総務） 小室厚博（監査） 橘幸市（総務） 横須賀康博（会計）		小林和夫（水府倶楽部） 小室厚博（監査） 橘幸市（総務） 横須賀康博（会計）			小林和夫（水府倶楽部） 小室厚博（監査） 橘幸市（総務） 横須賀康博（会計）		池永充宏（会計） 小林和夫（水府倶楽部） 小室厚博（会員拡充） 橘幸市（総務） 照沼貞夫（名簿管理） 横須賀康博（監査）		
会員概数		110		130			140		150		
総会	開催日	6月8日		6月7日			6月13日		6月19日		
	主議題	組織（役員）、会則、活動計画、予算、応援帽子作製		活動報告、会計報告、活動計画、幹事交代			活動報告、会計報告、活動計画		活動報告、会計報告、活動計画、新幹事提案、創部120周年記念誌抜版		
会報	号	1 （創刊号）		2		3		4		5	
	発行日	9月1日		3月1日		9月1日		3月1日		9月1日	
	巻頭記事	—		鬼澤会長挨拶		武藤副会長 就任挨拶		早川校長 就任挨拶		福島議員 応援メッセージ	
	主要記事	活動報告 応援メッセージ		活動報告 応援メッセージ		活動報告 応援メッセージ		活動報告 応援メッセージ		活動報告 応援メッセージ	
野球部支援		部室床材交換 創立130周年記念試合		バッティングマシン（父母会・水府倶楽部共同）、業務用掃除機2台			ユニフォーム20着予備スポン（水府倶楽部共同）		竹内コーチ謝礼		
監督		中山頭		中山頭			中山頭		竹内達郎		
部長		郡司忠		郡司忠			郡司忠		武士敬一		
主将		佐々木 拓		宮本尚也		国井恒太郎		住谷浩樹		木村祐人	
春季大会	地区予選	—		12-2友部			2-1波崎		0-1緑岡		
	県大会	2-6銚田一		0-7水短付			1-0鹿島学園		—		
茨城大会	1回戦	6-0笠間		—			—		10-0友部		
	2回戦	9-1日立一		5-6牛久栄進			4-3明野		6-9水城		
	3回戦	9-2常磐高		—			3-12波崎柳川		—		
	4回戦	4-6霞ヶ浦		—			—		—		
秋季大会	地区予選	3-2玉造工		13-3大洗			5-6茨城		2-5水戸工		
		3-5水城		0-1玉造工			—		—		

三の丸倶楽部 10年の歩み (2)

		平成24年		平成25年		平成26年		平成27年	
役員	会長	鬼澤邦夫		鬼澤邦夫		鬼澤邦夫		鬼澤邦夫	
	顧問・副会長	稲葉節生(顧問)		稲葉節生(顧問)		稲葉節生(顧問)		稲葉節生(顧問)	
	事務局長	森利克		森利克		森利克		森利克	
	幹事(担当)	池永充宏(会計) 小林和夫(水府倶楽部) 小室厚博(会員拡充) 橘幸市(総務) 照沼貞夫(名簿管理) 横須賀康博(監査)		池永充宏(会計) 小林和夫(水府倶楽部) 田村照吾(名簿管理) 照沼貞夫(会報)		池永充宏(会計) 田村照吾(名簿管理) 照沼貞夫(会報) 船橋信正(水府倶楽部)		池永充宏(会計) 田村照吾(名簿管理) 照沼貞夫(会報) 船橋信正(水府倶楽部)	
会員概数		150		180		200		210	
総会	開催日	6月17日		6月16日		6月8日		6月14日	
	主議題	活動報告、会計報告、活動計画、会則改訂、顧問新設、武藤副会長退任		活動報告、会計報告、活動計画、幹事新退任		活動報告、会計報告、活動計画、幹事交代、ホームページ改訂		活動報告、会計報告、活動計画	
会報	号	8 (若手OB特集)	9	10	11	12	13	14	15
	発行日	3月1日	9月1日	3月1日	9月1日	3月1日	9月1日	3月1日	9月1日
	巻頭記事	水府倶楽部若手OB特集	稲葉顧問 就任挨拶	70年の想い (海野氏)	竹内コチ 退任挨拶	町田顧問 退任挨拶	小島部長・太田顧問・早川コチ 就任挨拶	21世紀枠 出場校に学ぶ (森事務局長)	茨城大会 観戦記 (早川コチ)
	主要記事	活動報告 応援メッセージ	大学野球 部員特集	活動報告 応援メッセージ	活動報告 応援メッセージ	廣木氏 シリーズ記事(1)	廣木氏 シリーズ記事(2)	廣木氏 シリーズ記事(3)	廣木氏 シリーズ記事(4)
野球部支援		散水機(高圧洗浄機) 竹内コチ謝礼		ビデオ機器2台 バッティングマシン修理		試合球15ダース 早川コチ謝礼		業務用炊飯器2台 ヘルメット15個	
監督		竹内達郎		竹内達郎		竹内達郎		竹内達郎	
部長		武士敬一		武士敬一		小島淳		小島淳	
主将		木村祐人	鈴木啓吾	加藤聡		川又豪士		市村悠大	
春季大会	地区予選	4-3常磐大高 0-11鹿島学園		3-6常磐大高 -		10-0茨城東 4-6鉾田一		2-3波崎 -	
	1回戦	-		2-4境		4-2鉾田二		3-2牛久	
茨城大会	2回戦	8-9日立工		-		1-2つくば国際		5-4下館一	
	3回戦	-		-		-		0-3明秀日立	
	4回戦	-		-		-		-	
秋季大会	地区予選	-		9-0茨城東 5-7鉾田一		16-0鉾田二 1-7鹿島学園		2-3常磐大高 -	

		平成28年		平成29年	
役員	会長	鬼澤邦夫		鬼澤邦夫	
	顧問・副会長	稲葉節生(顧問)		稲葉節生(顧問)	
	事務局長	森利克		森利克	
	幹事(担当)	飯田芳久(総務) 池永充宏(会計) 田村照吾(名簿管理) 照沼貞夫(会報) 船橋信正(水府倶楽部)		飯田芳久(名簿管理) 池永充宏(会計) 照沼貞夫(会報) 船橋信正(水府倶楽部)	
会員概数		210		190(資格見直し後)	
総会	開催日	6月5日		6月17日	
	主議題	活動報告、会計報告、活動計画、幹事新任		活動報告、会計報告、活動計画、幹事退任	
会報	号	16	17	18	19
	発行日	3月1日	9月1日	3月1日	9月1日
	巻頭記事	水府倶楽部先輩 応援メッセージ (柿木、石川、 佐々木、川上)	海外で活躍する 水府倶楽部会員 応援メッセージ (多田、小室)	水府倶楽部 和知幹事長 就任挨拶	廣木氏 シリーズ記事 (最終回)「私が 観た甲子園」
	主要記事	廣木氏 シリーズ記事(5)	廣木氏 シリーズ記事(6)	廣木氏 シリーズ記事(7)	茨城大会観戦記 大学野球(木村)
野球部支援		ユニフォーム2着、バット5本、バットケース、遠征費(四国、東北)、用具収納具類		カウチ表示盤修理、遠征費(四国、東北)、海老澤コチ謝礼	
監督		竹内達郎		竹内達郎	
部長		小島淳		小島淳	
主将		市村悠大	馬場達哉	鈴木健拓	
春季大会	地区予選	2-3鉾田一		-	
	1回戦	-		4-5鹿島	
茨城大会	2回戦	9-0高萩清松		9-8鹿島学園	
	3回戦	0-3霞ヶ浦		6-3筑波	
	4回戦	-		0-5つくば秀英	
秋季大会	地区予選	6-0水戸農 2-9鉾田一		4-5水戸工 -	



三の丸倶楽部設立総会
平成20年6月8日 知道会館

三の丸倶楽部

顧問：稲葉節生 (S38年卒元茨城県教育長)
 会長：鬼澤邦夫 (S38年卒常陽銀行会長、知道会会長)
 事務局長：森利克 (S38年卒)
 幹事：
 照沼貞夫 (S47年卒、H20年卒父母会)
 池永充宏 (H23、24年卒父母会)
 船橋信正 (S63年卒、水府倶楽部)
 飯田芳久 (H元年卒)

//////// 会員を募集しています //////////
 ◇水府倶楽部(野球部OB会)及び現野球部父母会の会員以外どなたでも入会できます。
 ◇特典:会員帽子(入会時)の配付、会報(年2回)の送付など
 ◇年会費:一口 3,000円 (何口でも可)
 ◇手続き:氏名、住所、TEL 番号、メールアドレスを下記までご連絡ください。
 森利克 Tel/Fax : 0294-53-1351
 E-mail : ihm2158@ak.wakwak.com

V シリーズ「大学野球を目指す後輩部員たちへ」

大学野球で学んだこと・母校への激励

筑波大学硬式野球部3年 加藤 聡

こんにちは。筑波大学硬式野球部3年の加藤聡です。現在は投手コーチという形でチームに関わっています。今回お伝えすることは私が大学野球で学んだこととそのうえで母校の現役部員への激励です。



まず始めに、私が大学野球で学んだことは「勝負の厳しさ」です。大学に入学して部員数が多いため、まずは出場の機会を得るためにチームメイトと競争をしなければいけない。私はBチームに所属していたので、自分のタイプ、チームでの役割など様々なことを考えて、アピールした。競争の末、掴んだチャンスでは、技術不足のために結果をだせない、結果を出しても一度限りでは上のチームには上がれなかった。結果を出し続けるためには、結果を求め中でも自分を成長させていくことが重要であり、体の状態をキープしてい

なければいけない。これが私にとって非常に難しいことであった。また、勝負ということを考えて「周りを蹴落として自分がのし上がってやる」という強い気持ちがなければならない。そういう部分が私は弱かったと思う。チャンスは数えられるくらいしかないと思うので、その中でいかに自分を出して結果を残しアピールできるかがカギになってくる。

<現役部員へ>

少ない人数でもチーム内でしっかりと競争をして自分を伸ばして行ってください。優しいことはいいことだと思いますが、グラウンドに立てば誰もがライバルです。こいつに絶対負けないという気持ちで日々の練習に取り組んでみてください。試合でも相手の同じポジションの人に負けないように頑張ってください。全員がそういう気持ちをもっていれば自分を高められ、チームは強くなると思います。

最後に、水戸一高硬式野球部の躍進を期待しています。拙い文章を最後まで読んでくださりありがとうございました。

VI 「延長戦」

太田泰助 (水戸一高硬式野球部顧問)



昨年夏の1回戦、鹿島学園高との5時間3分におよぶ大激闘から構想を得ました。あの試合がなければ、この作品は生まれていません。本校野球部、鹿島学園の選手、応援団、あの試合をつくり上げた全ての方々に感謝します。

今回は水戸市民球場を舞台にしていますが、いずれは甲子園を舞台に描きたいと、本校野球部に密かに期待しています。

162cm×162cm 高知麻紙

岩絵具 純銀箔

第44回創画展 創画会賞

平成29年10月 東京都美術館 他

(一般社団法人)創画会 准会員

茨城県美術展覧会 会員

Ⅶ 水戸一高硬式野球部 名簿

(敬称略)

部長 小島 淳 監督 竹内 達郎 顧問 武士 敬一 太田 泰助

二年生



鈴木 健拓
那珂一中
内野手・主将



岡田 隆佑
勝田一中
内野手・副主将



金澤 正太
生瀬中
投手・内野手



関山 風野
水戸一中
外野手・内野手



武士 新一郎
東海南中
外野手



照井 貴太
水戸二中
捕手



廣江 敏也
大島中
外野手



松尾 俊吾
茨城大附属中
外野手



米川 亮輔
旭中
外野手



渡辺 勸太郎
石川中
内野手



菅沢 和花
那珂湊中
マネージャー



一年生



雨谷 俊太郎
笠原中
内野手



飯村 颯太
茨城大附属中
投手・内野手



井坂 史周
笠原中
外野手



岡野 楽
笠原中
内野手



小椋 陽太
茨城大附属中
外野手



小沼 瞭太
千波中
捕手



片根 崇行
城里常北中
投手・外野手



蒲原 大稀
稲田中
外野手・投手



吉川 俊
水戸三中
投手・外野手



黒崎 宗矩
多賀中
内野手



橋爪 健宏
勝田二中
内野手



三浦 健太郎
平沢中
外野手



柳田 綾乃
駒王中
マネージャー

VIII 試合結果・予定

平成29年度後半 公式戦・準公式戦・定期戦結果

月	日	大会	球場	結果
9月	8日(金)	秋季地区一回戦	県営	●4-5水戸工
10月	28日(土)	一年生	水戸農	●0-4水戸啓明
11月	18日(土)	水商定期戦	常銀平須	雨天中止
1月	2日(火)	豚汁会	水戸一	●3-7水府倶楽部

平成29年度後半 練習試合結果

月	日(曜)	球場	結果
8月	27日(日)	鹿島高	●8-11鹿島 ●0-7〃 (一年生5回) ○7-6〃
	29日(火)	牛久	●4-6牛久 ●1-11〃
9月	3日(日)	勝田工	●1-4勝田工 ○5-4〃
10月	1日(日)	牛久栄進	●1-10牛久栄進 ●2-7〃
	8日(日)	取手二 竜ヶ崎南	●3-6土浦日大 ○4-2土浦工・竜ヶ崎南
	9日(祝)	常総学院	●3-5柏中央 ●2-10常総学院
11月	4日(土)	中央	●2-4中央 ○7-6〃
	5日(日)	総和工	●3-20総和工 ●9-12〃
	11日(土)	太田一	●5-10太田一 ○6-2〃
	26日(日)	石岡一	●3-9石岡一 ●3-6〃

平成30年前半 試合予定 (平成30年2月15日現在判明分)

月	日	大会・対戦校・会場等(V:相手高G、H:水戸-G)
3月	11日(日)	練習試合 清真・波崎柳川(V)
	21日(祝)	練習試合 水戸工(V)・常磐大高
	23日(金)	練習試合 水海道一(V)
	24日(土)	練習試合 安積(H)
	28日(水)	練習試合 花巻農(H)
	29日(木)	練習試合 弘前・佐久長聖(H)
	30日(金)	練習試合 帝京長岡(H)
	31日(土)	練習試合 多賀(V)
4月	5日(木)	練習試合 守谷(V)
	7日(土)	練習試合 牛久栄進(V)
	11日(水)	地区大会組合せ抽選会
	14日(土)	地区大会開幕(~4月17日(火))
	20日(金)	春季県大会組合せ抽選会
	22日(日)	練習試合 中央(V)
	26日(木)	春季県大会開幕(~5月5日(祝))
5月	5日(祝)	練習試合 宇都宮(V)
	6日(日)	練習試合 土浦一(V)
	13日(日)	練習試合 緑岡(H) 春季関東地区大会組合せ抽選会
	19日(土)	春季関東地区大会開幕(於千葉県 ~23日(水))
	20日(日)	練習試合 つくば東風(V)
	27日(日)	練習試合 つくば国際(V)
6月	9日(土)	練習試合 土浦三(午後、場所未定)
	10日(日)	練習試合 佐原(H)
	17日(日)	練習試合 太田一(V)・佐和
	20日(水)	全国選手権茨城大会組合せ抽選会
	30日(土)	練習試合 鹿島(V)
7月	7日(土)	全国選手権茨城大会開幕(~7月25日(水))



編集後記

2018年冬季五輪における日本選手団の活躍は目覚ましいものがあります。直前のアクシデントを乗り越え、見事に五輪連覇を達成した男子フィギュアスケートは別格として、個人的に着目したのは、「女子1500mパシュート」であります。前回大会で表彰台を逃し、雪辱に燃える日本チームの決勝の相手は、強豪国オランダ。出走する3人が全て今大会のメダリストというスター軍団でした。一方の日本はといえば、メダリストは一人。個人の力で劣る日本チームは、他国が疎かにした戦術と連携を磨き続け、一時リードを許す展開を見事に跳ね返し、悲願の金メダルを獲得したのです。個人の力で勝てずとも、力を結集しチーム力で格上に挑むというのは、団体競技ならではの戦略です。

水戸一高野球部が格上に挑み、何度も跳ね返されてきたことは事実ではありますが、それでも挑み続け、やがて栄冠を掴む日が必ず来る、そんな予感をさせる一幕でありました。(照沼)